

盲亀の我等まで見る心地する
梅が枝の花の春の長閑さは
難波の法によももれじ

令和五年 七宝会

土潤公演

梅花の能

つちうるおうこうえん

春の夜の闇はあやなし梅の花
色こそ見えね香やは隠るる

最も古典にして、
最もアヴァンギャルドな芸能
能楽をみなさまに

七宝会
宝生流

●昼の部

舞囃子

「高砂」

辰巳大二郎

能

「弱法師」

五段

石黒実都

●夜の部

狂言

「文荷」

茂山千五郎

能

「東北」

辰巳孝弥

◆二月二十一日(火)

昼の部 十五時開演 夜の部 十八時開演

◆枚方市文花芸術センター

関西医大 小ホール

令和五年

七宝会 土潤公演

つちうるわうこうえん

梅花の能

七宝会

会場

【番組】

○昼の部 十五時開演

舞囃子「高砂」

五段

住吉明神 辰巳大二郎 大鼓 辻 雅之 太鼓 中田 一葉

小鼓 久田陽春子 笛 貞光 智宣

能「弱法師」

俊徳丸 石黒 実都 大鼓 辻 雅之 笛 貞光 義明

高安通俊 福王 知登 小鼓 久田陽春子 笛 貞光 義明

通俊従者 茂山 逸平

●夜の部 十八時開演

狂言「文荷」

太郎冠者 茂山千五郎 主人 松本 薫 次郎冠者 山下 守之

能「東北」

和泉式部重 辰巳 孝弥 大鼓 上野 義雄

旅 僧喜多 雅人 小鼓 高橋奈王子 笛 貞光 智宣

所の者 井口 竜也

◆日時 令和五年 二月二十一日(火)

昼の部 十五時開演 夜の部 十八時開演

◆会場 枚方市総合文化芸術センター 本館 関西医大 小ホール

〒573-1191 大阪府枚方市新町2-1-60

◆料金 〈昼の部、夜の部それぞれ〉指定席 4,000円 自由席 3,000円

〈昼夜通し〉指定席 6,000円 自由席 4,000円

●昼夜通しで「購入いただと、昼夜公演の合間に舞台での簡易な体験(能面、装束、小道具など)や撮影をしていただけます。予約制・先着25名様

◇ 能 「弱法師」 よろぼうし

河内国(大阪府八尾市付近)の住人・高安通俊は、かつてわが子を追い出してしまった悔恨の念から、四天王寺の境内で七日間の施行をしていた。そこへやって来た盲人の弱法師。その風流心ある様子を見ていた通俊は、彼こそわが子のなれの果てだと気づく。

やがて日没の時刻。春の彼岸にあたる今日、寺の西門・石の鳥居には多くの人々が集まり、沈みゆく夕日を見て西方浄土に思いを馳せる日想観(じつそうがん)をおこなっていた。弱法師も夕陽に照らし出された難波浦の致景を心に思い描き、興に乗じて舞い戯れはじめた。しかし彼は通行人と衝突して転倒してしまい、盲目の身という現実には打ちのめされてしまうのだった。やがて夜になり、父だと名乗り出る通俊。はじめは恥じ入る弱法師だったが、通俊はそんな息子の手を引き、わが家へと連れて帰るのであった。

◇ 狂言「文荷」 ふみにない

主人は左近三郎という人へ手紙を届けるよう、太郎冠者と次郎冠者へ命じます。二人は連れ立って歩きますが、お互いに相手に持てど押し付けあった結果、二人一緒に持つことになって、竹の棒の中間に結びつけ二人で担いで行きます。途中で、これは恋文だから重いと言いい、能『恋重荷』の一節を謡っているうちに、ついに文を下ろして座り込んでしまいます。太郎冠者の提案で二人は手紙を開いて読んで、主人の文章をあげつらつて楽しみます。争って読もうちに手紙が破れてしまい、切れ端を「風の便り」などと謡いながら扇であおいでいると……。

◇ 能 「東北」 とうほく

僧の一行が京へ上ると、東北院で美しい一本の梅に出会う。そこへ女が現れ和泉式部がこの梅を植え軒端の梅と名づけ、春ごとに眺めていたこと、この梅を愛した故事を語り、やがて姿を消してしまふ。その夜、和泉式部の霊が現れて昔の有り様を語り、東北院の情景を愛で、昔を偲んで舞を舞う。

◆ 令和五年 七宝会年間会員について

年会費 20,000円(公演案内送付及び、先行予約権付き指定席8席)

※会員特典として、先行予約と割引。

※発売・予約開始は、会員は60日前(一般は50日前より)。

※年度途中からでも会員に申し込みいただけます。

※防疫対策、席数制限など感染症対策をしております。

お問合せ・チケットお申し込み先

宝生流 七宝会

〒572-0009

大阪府寝屋川市末広町11-8 辰巳方

TEL 072-831-3206

FAX 072-832-5115

会場のご案内



枚方市総合文化芸術センター 本館 関西医大 小ホール 京阪電車「枚方市」駅から徒歩約5分